

2009年度「夢の貯金箱」活動にかかる収支報告書

自 2009年4月1日 至 2010年3月31日

(単位:円)

	決算額	備考
I 収入の部		
1.寄付金収入	46,014,305	(内訳)
		自販機寄付 17,106,610円(485台)
		贖罪寄付 16,575,620円(12件)
		香典寄付 1,250,000円(12件)
		一般寄付 11,082,075円(196件)
当期収入合計	46,014,305	
前期繰越収支差額	3,218,441	
収入合計	49,232,746	
II 支出の部		
1.事業費支出	16,400,000	NPO団体支援支出 合計8団体(※詳細は以下の通り)
2.管理費支出	0	間接経費は日本財団が支出し、寄付金は100%全額支援プロジェクトに活用した。
当期支出合計	16,400,000	
当期収支差額	29,614,305	
次期繰越額	32,832,746	

※支援先の詳細は以下のとおりです

支援先団体名	支援金額	活動内容
技能ボランティア海外派遣協会(NISVA) (経験を海外に活かす日本人シニアボランティアの活動支援)	500,000	自らの経験を第二の人生で活かそうとベトナム、フィリピンに飛び込んだ日本人シニアボランティアが、現地の人たちのために取り組む活動資金の支援として支出しました。 (1) 佐々木憲作氏(ベトナム) 視覚障害児に音の鳴る腕時計、点字本の購入 (2) 原田恵津子・昭司夫妻(フィリピン) 自閉症等の障害児に対する情操教育のための楽器の購入 (3) 小山啓子氏(フィリピン) ストリートチルドレンのシェルターの修繕 (4) 鈴木禮子氏(フィリピン) 公衆衛生指導(風取り、うがい、手洗い等)
(特) 全国被害者支援センター (被害者への緊急支援金の支給)	1,750,000	殺人、強盗、強姦など凶悪な犯罪に遭い、医療費や当面の生活費、葬祭費などにも困窮する方が多いのが実情です。頂いた寄付金を、凶悪な犯罪により生活が困窮している方へ緊急に支給する「被害者緊急支援基金」に積み立て、これまでの総額が575万円(2010年3月31日現在)となりました。この基金で、被害者の当座の経費、性犯罪被害者の通院費、命を奪われた方への葬儀代など、2009年度中に60万円(20件)の支援をしました。
(特) アジア教育友好協会(AEFA) (タイとベトナムでの学校建設支援)	7,500,000	経済発展著しいアジアの国々ですが、山岳僻地は非常に貧しくインフラが整っていないため、いまだ教育を受けられない子どもたちがいます。頂いた寄付金は、学校建設に地域住民を巻き込み、学校の運営費を捻出する仕組みと合わせて、タイに1校、ベトナムに2校の学校建設を行いました。 ①タイの小学校建設 ナーン県プア地区のナムプア小学校(建設費:谷川洋様・広部武様・木村敬道様・酒井祐子様と匿名希望2名様の指定寄付100万円、匿名希望様指定寄付100万円、一般寄付より50万円) ②ベトナムの小学校建設 (i)ルフォンフォン小学校コンダオ分校 (ii)ポコ小学校トゥゾップ分校 の建設費500万円を支援しました(アーク様指定寄付)。
(特) いのちのミュージアム (生命の尊さを伝える活動支援)	2,000,000	犯罪や悪質交通犯罪で突然の悲劇に見舞われる人々は少なくありません。「いのち」の大切さを感じ、そのような犯罪の撲滅を目的として、全国で「生命のメッセージ展」の開催を行っています。展示会に併せて開催している交通犯罪被害者を題材としたノンフィクション映画「0(ゼロ)からの風」を上映するための高性能プロジェクタの購入を支援しました。
(特) ネイチャリング・プロジェクト (体験型重視の「夢の学校」作りを支援)	2,000,000	経済、政治、福祉・・・どれも先行きが不透明という時代に、社会の問題の本質を捉え解決のために行動できる社会起業家の育成が重要です。2012年、子どもたちに国際人としてだけでなく、社会起業家としての素養を学ばせる「夢の学校」を開校するため、2009年度は、カリキュラム作成の実践の場として土曜日学校「グローブアカデミー」開講のほか、パソコンの同時中継システムを使ってイギリスの子どもたちと交流するインターネット海外交流や、実際にイギリスを訪問して“生”のイギリスを体験しました。
子どものホスピス「ヘレン&ダグラスハウス」交流セミナー実行委員会 (小児ホスピス啓発事業の支援)	2,000,000	余命の限られた子どもは日本で2万人。小児がん、神経筋疾患や筋ジストロフィーなどで回復を見込めない難病の子どもたちに楽しみを、介護者に休息を与える場所となる子どものホスピスは、日本にまだひとつもありません。この必要性を多くの人々に伝え、子どものためのホスピス建設の機運を高めるため、頂いた寄付金で「ヘレン&ダグラス交流セミナー」を開催しました。セミナーには約650名が参加し、そのうち99%の方が日本に子どものホスピスの必要性を感じるという結果が出ました。 ※「ヘレン&ダグラスハウス」は、1973年に不治の病の子どものためのホスピスとして世界で初めて英国に作られた施設。
Live on (自死遺児の集いと文集出版の支援)	650,000	日本の自殺者数は1998年以来12年連続で年間3万人以上、これまでの自死遺族数は累計180万人以上という現状があります。自分の親を自死で失ったことで深く悩み、孤立してきた自死遺児自身が体験を分かち合う集い「YES for Life」の開催と、そこに集まった勇気ある遺児たちによる文集「それでも生き続ける—自死遺児たちの集い—」の出版を支援しました。
合計(8件)	16,400,000	

(参考)

2009年度「君和田桂子基金」によるホスピス活動支援実績

団体名	金額	活動内容
(特)緩和ケア支援センターコミュニティ 「三丁目の花や」	1,000,000	どんな人も住み慣れた地域で、家族や親しい人と一緒に、最後まで自分らしく過ごしたいと思っています。“通い”“泊まり”“訪問”のサービスを通して、安心の中で看取りまで含めたターミナルケアを行っています。
(特)在宅緩和ケア支援センター“虹”	1,000,000	治療の難しい病気の患者本人や家族には、体のことだけでなく生きる意味や、仕事や家庭のことなど、様々な悩み、戸惑いが生じます。ホスピス勤務や進行がん患者への訪問看護を経験してきた看護師が中心となり、がん患者と家族の個別療養相談や、がん患者のサポートグループの運営を行っています。
(特)山谷・すみだリバーサイド支援機構	1,000,000	「きぼうのいえ」は、東京の下町、通称「山谷」に開設された在宅ホスピス。ホームレスや路上生活者など身寄りがなく病や人生の苦難のうちにある人々に、温かい食事と終のすみかを提供し、多くのボランティアの協力を得て、看取りまで行っています。
(特)ホームホスピス宮崎	1,000,000	「かあさんの家」は、終末期にあつて自宅で最後を迎えたいと願っても、1人暮らしや老老介護などの家庭の事情で自宅に戻れない患者さんが、心穏やかな時間を過ごせる施設です。家庭的な環境の中、24時間のケアを提供しています。
合計	4,000,000	

※君和田桂子基金は、2005年度「夢の貯金箱」にご寄付いただいた3,000万円により(財)笹川医学医療研究財団に設置した基金。ホスピスケアの専門家の審査により支援先を決定しています。